



THE JAPANESE SCHOOL in LONDON

# ロンドン日本人学校だより 7

学校教育目標

自ら学び、心豊かにたくましく国際  
社会を生きぬく児童生徒の育成

合い言葉：自立・貢献

7月1日発行 ロンドン日本人学校  
令和元年度 第4号 1.7.2019

## 「自立・貢献」を体現する

校長 石山 秀樹

英国では6月は大変に陽気が良く、太陽の出ている時間も長いため、本校では全ての学年が6月に宿泊行事、遠足、校外学習を実施しています。中でも、6月4日(火)から3泊4日で実施された中学部2年のスコットランドでの修学旅行、12日(水)から2泊3日で実施の小学部6年ウェールズ・北イングランドへの修学旅行、6月21日(金)から2泊3日・野外活動施設PGLで実施された小学部5年の自然体験学習では、私自身が児童生徒と生活や活動を共にする中で、本校の合い言葉である「自立・貢献」の力が発揮される場面を多く見ることができた、有意義な旅となりました。

3つの宿泊行事の「出発式」で、私はほぼ同じ内容の話をしました。それは、「自立・貢献」の力を見せてほしい、というものです。「自立・貢献」が何を目指すかは、既に今年度4月号の「だより」でお伝えしました。私はこの2つを、児童生徒が社会人となる将来に欠かすことのできないものと考えています。しかし一方で、日本国内とは違う生活環境、常に大人の保護の下に置かれなければならない在外に暮らす児童生徒にとっては、身に付けにくいものでもあると思っています。自分で何かをより良くする手立てを発想し、考え、選択・決断し、責任を持って実行し手応えをつかむこと。誰かのため、何かのために力を発揮し、そのことが自分自身の充実や全体の向上に繋がっていると実感できること。そのような「学び」を学校で、特にこの宿泊を伴う学習でつかんでほしいと思ったのです。

結果としてそれらは、各見学地や体験での児童生徒の班行動や取組の中で、宿泊施設での生活の中で、夜間に行われた実行委員会や班長会議の話し合い（「全員が楽しくするために」「声をかけ合って」といった、「すすんでかかわる」に繋がる議論

がされていました）等で、十分に体現されていました。体調を崩す子も無く皆元気に過ごし、旅で訪れた各見学地の係の方々、旅を円滑に進める上でお世話になった添乗員さんや担当の方々からも、それぞれに温かなお褒めの言葉を頂戴しました。多くの「学び」に加え、日本人学校、或いは「未来の日本人」の代表として誇らしい姿を見せた旅でした。

## 学校創立記念日を迎えて

さる6月18日(火)は、本校43年目の創立記念日でした。これを記念し、前日17日(月)に創立記念集会を開き、全校児童生徒が学校のこれまでの歩みを振り返るとともに、学校の「誕生日」をお祝いしました。

今を遡ること53年前の昭和40(1965)年9月、本校の前身である日本クラブ主催の「日本語会」が発足しました。年々児童生徒数が増え、自分達の「日本人学校」を作ろうという機運が高まり、多くの先達の努力の結果、昭和51(1976)年6月18日に英国の私立学校として認可され、この日を創立記念日として決めました。記念集会のスライドでも紹介されましたが、開校当初は校舎も無く間借りして授業を行ったところから、昭和52(1977)年4月にカムデン校舎へ、さらに昭和62(1987)年にアクトン校舎へと移転し、現在に至ります。これまでの卒業生は、小学部で3,231名、中学部で1,834名を数え、多くの優れた人材を輩出しました。ロンドン日本人学校は、学校の創立から発展へと力を尽くした多くの方々の想いが詰まってできている学校です。児童生徒・教職員をはじめ学校に関わる皆でその想い、歴史と伝統を引き継いでいきましょう。

さて、今月13日(土)は、いよいよ本校2大行事の1つ、第43回運動会です。熱い戦い、そして熱い貢献の姿を期待しています。

## 雨の日の森は・・・

6月7日(金)、中学部1年生はWendover Woodsへ遠足に行きました。あいにく、朝から雨



になってしまいました。前日にも暖かい服装・靴下の換え・タオルなどの準備をするように伝えましたが、Wendover Woodsに着く頃はかなり降っていました。しかし、生徒達の行いが良いのか、記念写真を写し終わると雨が小降りになり、グループオリエンテーリングをすることができました。長い松かさを持ちたり、英語の看板を探したりしながら、楽しく歩いて行きました。そして、どのグループも迷うことなくグラッファローの像のところに到着することができました。雨の日に森を訪れる経験は、滅多にないと思いますが、森の木々に降り注ぐ雨の音を聞いたり、大きなナメクジをたくさん見つけたり、普段とは違った森の表情に気付いた生徒もたくさんいました。

雨が本格的に降ってきたので早めの帰校になりましたが、感想をまとめたり、森についての調べ学習の続きをしたりして有意義に過ごしました。森について深く考えたり感じたりできた1日となりました。

## まさに「サイコー」の旅



中学部第2学年は、修学旅行でエディンバラ、グラスゴーを訪れました。旅のスローガンは「サイコー」。「最高の修学旅行をめざして、さあ行こう！」スローガンには、

そんな願いが込められていました。

何事も準備がすべて。今回の修学旅行では、準備段階から実行委員4人の活躍が光りました。旅先で「何を学ぶか」も大切ですが、生徒達にとって最も重要だったことは「誰と学ぶか」でした。「この学年で学ぶ」旅を心待ちにしていた生徒達

は、今回の修学旅行を通してさらに絆を深め、「自分たちで行動すること」の大切さに気付きました。

班で苦労しながら、現地の下調べを行った壁新聞づくり。班で楽しみながら計画を立て、現地の歴史や食文化を学んだロイヤルマイルの班別見学。最初はお互いに照れながらも、男女の絆を深めたスコティッシュダンス。みんなで岩場を登り、晴天の中でエディンバラの街を一望したアーサーズシート……。今回の修学旅行は、まさに「自立」の精神を学ぶことができた「サイコーの旅」となりました。

## たくさんのことを学んだ修学旅行



小学部6年生は、6月12日(水)から14日(金)まで修学旅行に行きました。

まず、陶器の街、ストーク・オン・トレントにあるエマ・ブリッジウォーターに行きました。陶器ができるまでの様子を見学した後、職人さんと同じ手法で皿に絵付けをしました。子どもたちは、世界に一つだけの皿を作ろうと、黙々と作品作りに取り組みました。初めは上手に色がつけられずに苦戦している子もいましたが、次第に要領を得て上手にできるようになりました。実際に絵付けをするなかで、職人さんの技術の高さを改めて実感していました。

次に、映画「天空の城ラピュタ」のモデルになったと言われているカーナフォン城に行きました。映画で登場した場所を探したり、カーナフォン城から見える海などの景色を眺めたりしながら、見学を楽しみました。他にも、オールド・トラフォードスタジアムやスノードン山、マンチェスター科学産業博物館などに行きました。

2泊3日の修学旅行は、文化や自然についてだけでなく、集団行動する上で大切なことなども学ぶことができました。修学旅行で学んだことをこれからの学校生活にも生かしていきたいと思えます。